

どれにしようかなあ。ふるさと納税の返礼品を見るだけで、顔がにやけてくる。これも美味しそうだし、あっちもいいなあ。

ふるさと納税で寄付をすると、その自治体からお礼の品が届く。返礼品の種類も豊富だし、返礼品を見ているだけで特産品も分かり地理の勉強になる。

いつものようにふるさと納税のサイトを見ていると、「返礼品なし」の文字が目に入った。

「お母さん、『返礼品なし』のふるさと納税があるわ。」

「へえ、だったらそこに寄付したら。」

「えー、だって返礼品ないんよ。」

「いいじゃない。誰かの役に立てるんだったら。家族みんなで出し合い、寄付しようよ。ほら、お年玉の残りがあったでしょう。」

私は気の進まないまま、貯めていた千円札を出した。あーあ、千円あったらあのお菓子も買ったのになあ。

千円の後悔を忘れかけていたある日、学校から帰ると机の上に封筒が置いてあった。

町役場？ふるさと納税係？

中を見ると、町長さん直筆の手紙が入っていた。そこには寄付をしてくれたお礼に加えて、台風被害の復旧に活用させていただく、と書かれていた。

ふるさと納税を選ぶとき、「自分で決めなさい」と母に言われ。返礼品がないのなら、行ってみたい所にしようと綺麗な海の島を選んだっけ。その町役場からだ。町長さんの手紙には、島の透き通るような海の写真もそえられていた。

私は、その手紙を何度も読み返した。これまでもらったどの返礼品よりも、あったかい気持ちになった。納税をした自分が、ちょっぴり大人になれた気がした。

納税は国民の義務と習ったが、税金は思いやりの心ではないだろうか。自分が納めたお金が、誰かの支えになっている。誰かが笑顔になってくれる。

町長さんの心からのメッセージ。「美しい町の姿をお見せできるよう、全力で復興に取り組んでまいります。」

私もいつかこの島へ行き、綺麗になった海や自然と触れあいたい。そのときは、自分の税金が復興に貢献できたことを誇らしく思うだろう。

一人が納めるお金は少なくても、みんなで協力すれば大きな力になる。

誰かのためにお金を使うこと。それで一番嬉しくなるのは、きっと自分だ。相手が喜んでくれることで、自分の心が一番温まる。

私は次のふるさと納税に向け、お金を貯め始めた。買うお菓子を減らすかな。

「何に使うの？」と母に聞かれたが、「いいこと！」だけ言っておいた。貯金箱に貯まりつつある千円の使い道は、私以外誰も知らない。